

目次

序にかえて……………三

第一篇 衆徒と閉籠

第一章 中世延暦寺の大衆と「閉籠」……………九
——『元徳二年三月日吉社并叡山行幸記』に見える大衆の動向——

はじめに……………九

一 『行幸記』の信憑性……………一〇

二 『行幸記』に見える「閉籠」……………一一

三 「院々谷々」の大衆と閉籠……………一三

四 覆面姿の閉籠衆……………一六

むすび……………一八

第二章 「山訴」の実相とその歴史的意義……………二二
——延暦寺惣寺と幕府権力との関係を中心に——

はじめに……………二二

一 堂舎閉籠から神輿動座へ……………二二

二 閉籠衆と「堂中」「対決」	二九
三 日吉の祭礼と祇園会・北野祭	三六
四 土一揆の蜂起と疫病の流行	四一
むすび	四三
第三章 中世寺院社会における身分——天台宗寺院の事例を中心に——	五七
はじめに	五七
一 園城寺の僧	五七
二 延暦寺の「上方」	六二
三 延暦寺の「中方」と「下僧」	六六
むすび	七一
補論 中世における「智証大師関係文書典籍」の伝来	七六
——貞和二年六月の「大師御重書」の「感得」を中心に——	七六
はじめに	七六
一 三巻の注進状・目録	七七
二 文書目録の作成契機	八四
三 目録の内容	八七
むすび	八九

第二篇 坂本の馬借

第一章 中世・坂本の都市構造——六箇条と三津浜の「在地」をめぐる——……………九五

はじめに……………九五

一 応永元年の社頭掃除……………九六

二 坂本の「在地人」と「在地」……………一〇〇

三 三津浜の六つの在地……………一〇三

四 上坂本の三か所の風呂屋……………一〇六

五 「近所ノ風呂」……………一〇八

六 在地の祭と講……………一〇九

七 上下坂本の鎮守社……………一一一

八 六箇条の区域……………一一四

むすび……………一一五

第二章 堅田大責と坂本の馬借……………一二〇

はじめに……………一二〇

一 延暦寺の堅田大責……………一二〇

二 延暦寺と坂本の馬借……………一二二

三 山門衆徒と神輿振り……………一二五

四 「日吉社と「馬ノ衆」	一二九
五 神輿振りと馬借蜂起	一三三
むすび	一三六
第三章 坂本の馬借と土一揆——「王法仏法相依論」の呪縛からの解放——	一四四
はじめに	一四四
一 康暦元年と応永二十五年の坂本馬借の嗽訴	一四八
二 応永三十三年の坂本馬借の嗽訴	一五四
三 坂本における馬借の存在形態	一五九
四 坂本の土一揆と馬借	一六一
むすび	一六五
第三篇 山門と日吉社	
第一章 大津神人と日吉祭——祭礼の司祭と舗設——	一七三
はじめに	一七三
一 日吉社の縁起と大津神人——船渡御と唐崎宿院——	一七五
二 「大津生得神人」と「京都の入神人」	一七九
三 「粟津の御供」の成立	一八一
四 「粟御供」の備進主体の変化	一八四

むすび・・・一八六

第二章 大津神人と山門衆徒・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・一九一

はじめに・・・一九一

一 大津神人と日吉社―田中恒世と宇志丸の末裔―・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・一九二

二 大津神人の官への訴え・・・一九四

三 日吉社司と山門衆徒・・・一九六

四 大津神人と山門衆徒・・・二〇一

むすび―新たな日吉社神人の登場―・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・二〇四

第三章 衆徒の金融と神人の金融・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・二二一

はじめに・・・二二一

一 「悪僧」の金融・・・二二二

二 「神人」の金融・・・二二五

三 乾元元年の神輿造替―「大津生得の神人」と「京都の入神人」―・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・二二七

四 正和四年の神輿造替―「山門気風の土倉」―・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・二三一

むすび・・・二二四

目次

第四篇 中世都市・京都の変容

第一章 応仁の乱と京都……………一三三

—室町幕府の役銭と山門の馬上役の変質をめぐって—

はじめに……………一三三

一 東軍の「御構」——幕府の限定された統治区域……………一三四

二 西軍の「下京」——「五条町前後八町」の状況を中心に……………一四一

三 馬上役徴収主体の変化——応仁二年から文明二年まで……………一四八

四 乱中の馬上役の実態——文明三年から文明六年まで……………一五五

むすびにかえて——乱後の馬上役……………一五九

第二章 中世京都・東山の風景——祇園社境内の景観とその変貌をめぐって……………二七七

はじめに……………二七七

一 路傍の石塔と堂舎……………二七八

二 本殿と四条橋の「杓ふり」……………二八七

三 四条橋西詰めの鳥居……………二九六

むすび……………三〇一

第三章 中世「四条河原」考——描かれた「四てうのあおや」をめぐって……………三二一

はじめに……………三二一

一 「河原者宿所」の位置……………三二二

二 「余部屋敷」の領域……………三二三

三 描かれた「余部屋敷」	三二五
四 「四てうのあおや」の画像	三二三
五 紺屋と青屋	三二六
むすび	三二八
付 篇	
付 論 『言繼卿記』に見える法住寺	三四三
はじめに	三四三
一 法住寺の「御はんせん」	三四四
二 後白河法皇の「絵像御影」	三四七
三 「御影」の行方	三四九
むすび	三五一
史料紹介 岡本保望上賀茂神社興隆覚	三五六
むすび	三九三
初出一覧	
あとがき	
索引(人名・事項)	

序にかえて

本書は、中世において比叡山延暦寺が果たした歴史的役割を、同寺の活動実態とその支配下にあった京・近江の民衆との関係を中心に考察したものである。

中世、延暦寺が衆徒（大衆）による合議（衆議）で運営されるいわゆる「惣寺」（以下、「山門」と呼ぶ）として存在していたこと、鎌倉時代になると強大な軍事力（武力）・経済力（富）を保持する衆徒が出現し彼らが山門を政治・経済的に主導していったこと、さらには南北朝時代末には彼ら衆徒の一部（山徒）が室町幕府に山門使節・馬上一衆（土倉方一衆）として組織されるにいたったことなどについては、かつて不十分ながらあきらかにしたことがある。また、そのような山門が南北朝時代から室町時代にかけて数多くの天台宗寺院を末寺として従え、中世には公家・武家社会と相対するかたちで「寺院社会」ともいうべきものが形成されていたことについても既述したところである¹⁾。

しかし、山門の「惣寺」の内容そのものについては、それが東塔・西塔・横川の三院（三塔）の連合体として存在したことを指摘するにとどまり、その組織と機能については多くの部分が未解明のままとなっていた。そこで本書ではまず最初に「山訴」（山門の嗷訴）をとりあげ、その実行過程を検証するなかで、三院の連合体としての山門の「惣寺」がどのような組織と機能をもつものであったかを考察した。また、山門の運営主体はいうまでもなく寺の成員たる衆徒ではあったが、山門には衆徒以外にも各種の下僧が存在しており、彼らが「惣寺」の

なかで果たした役割についても寺院における身分という観点から合わせ検証した。

一方、山門が「神輿振り」に象徴される噺訴（山訴）をもって、平安時代後期以降、公家・武家政権を悩ませ続けていたことはよく知られている。公家・武家政権にとって山訴に対する対応は常に重要な政治課題となっていたわけであるが、その多年の課題に答えるかたちで南北朝時代末に將軍足利義満が作りあげたのが、「山門使節」「馬上一衆（土倉方一衆）」の両制度であった。軍事力・経済力に秀でた衆徒の一部を政権に取り込むことで、山門を統制しようとするその試みは一定の成果をあげ、その結果、噺訴はしばらく止むが、本書では義満時代に始まるあらたな山門と武家政権の関係がその後どのように推移していったかについても改めて検証した。とりわけ応仁の乱中、ほぼ十年にわたり京都の一面に追い詰められた幕府（東軍）がかるうじてその陣地（「御構」）を保つことができたのは、彼らに味方した山門の支援があったからと考えられ、乱中における室町幕府と山門の関係については詳細に検討を加えた。

中世における山門の活動を考察するにあたり、これまであまり顧みられなかったものの一つに、その支配下の民衆との関係がある。本書では中世、山門ときわめて密接な関係を保っていた近江の坂本の住人（「坂本の在地人」）と日吉社の大津神人を取りあげ、その活動実態を探るなかで、彼らが山門の活動にどのような影響を与えたかを考察することとした。

また、山門支配下の民衆に限らず、民衆一般の歴史的心象を知る上において、大きな手がかりとなるものに景観の変化がある。むろん景観はさまざまな要因によって変化するものであり、すべてが民衆の歴史的心象を投映しているわけではない。しかし、その地区が寺社の境内のように民衆の信仰と深く結びついたものであった場合、そこにはなんらかのかたちでそれは投映されていたものと考えられる。

そのような観点から、本書では、京都の祇園社の境内（四条橋詰の大鳥居以東）と、それに隣接する河原者の

居住地区としての「四条河原」（鴨川の西岸）の二つの地区をとりあげ、そこで中世から近世にかけて起こった景観の変化が意味するところを絵画史料をも援用して考察した。

このうち後者については、山門との直接的な結びつきはないが、鴨川東岸の清水坂には河原者と同様に中世、社会から不当な差別をうけていた非人（坂者）が住みつき、彼らの一部は祇園社の「大神人」となっており、同社を介してときには山門から検断等に駆使されていた。そのこともあつて、その社会的基盤を非人は「仏法系統」に、それに対して、河原者は「王法系統」に置いていたともいわれる。これまでほとんど不明とされてきた河原者の居住地区としての「四条河原」の領域とそこでの彼らの生活実態をあきらかにすることで、両者がそれぞれ「王法」「仏法」といかなる関係にあつたかを考えた。

なお、この点にもかかわつて、本書において全体を通じてとくに留意した点の一つある。それは「王法」と「仏法」が互いに助け合うことで、この世の安寧は保たれるという中世に社会通念として存在した、いわゆる「王法仏法相依論」と山門とのかかわりである。

中世、山門はみずからを「仏法」の体現者と位置づけ、「王法」の実践者としての公家・武家政権と対峙する立場に置いていた。そのことは「仏法」が「王法」にみずからの要求を突きつけるというかたちで展開した山門の嗾訴が、何よりもよくそのことを示している。

また、嗾訴でより重要な点は、そこで要求が叶えられなかった場合、山門が「仏法」と「王法」との「相依」関係を、「仏法」の立場から一方的に破棄できたという事実である。「王法」（公家・武家政権）が、常に「仏法」（山門）のいわば言いなりになるしかなかったのはこのためであり、中世における山門の活動は「王法仏法相依論」という理念的な裏づけを抜きにして理解することはできないといっても過言ではない。

当然のことながらこの中世的な理念は一般の民衆にもおよんでおり、とくに山門の直接的な支配下にあつた地

区の住人がそのもつとも強い呪縛下にあったことは、坂本の住人でいえば、彼らの一部（馬借）が、山訴と同様に日吉社の神威を背景にみずからの訴えを直接室町幕府に突きつける「嗷訴」をしばしば実行していることがそれを何よりも如実に物語っている。本書において「王法仏法相依論」の広がりとその展開にとくに留意した由縁である。

(1) 拙著『中世寺院社会の研究』（思文閣出版、二〇〇一年）・『京を支配する山法師たち―中世延暦寺の富と力―』（吉川弘文館、二〇一一年）参照。なお、本書に収録した拙稿初出以後に発表された中世の延暦寺（山門）に関連する研究に、衣川仁『中世寺院勢力論―王法と大衆の時代―』（吉川弘文館、二〇〇七年）、三枝暁子『比叡山と室町幕府―寺社と武家の京都支配―』（東京大学出版会、二〇一一年）がある。筆者の力量不足によりその研究成果を改めて本書に活かすことができなかつた部分が少なくない。記して謝するものである。

(2) 丹生谷哲一「犬神人小考」（『歴史研究』三三、一九九四年）。拙稿「書評・三枝暁子著『比叡山と室町幕府―寺社と武家の京都支配―』（『日本史研究』六〇一、二〇一二年）参照。

■初出一覧■

(サブタイトルは略)

序にかえて

(新稿)

第一篇 衆徒と閉籠

第一章 中世延暦寺の大衆と「閉籠」

『武蔵野文学』四九(武蔵野書院) 二〇〇一年一月

第二章 「山訴」の実相とその歴史的意義

『延暦寺と中世社会』(河音能平・福田榮次郎編、法藏館) 二〇〇四年六月

第三章 中世寺院社会における身分

『研究紀要』九(世界人権問題研究センター) 二〇〇四年三月

補論 中世における「智証大師関係文書典籍」の伝来

『園城寺文書』一(園城寺編) 一九九八年一〇月

第二篇 坂本の馬借

第一章 中世・坂本の都市構造

『日本文化史研究』三八(帝塚山大学人文学科) 二〇〇七年三月

第二章 堅田大責と坂本の馬借

『中世社会と一向一揆』(北西弘先生還暦記念会編、吉川弘文館) 一九八八年二月

第三章 坂本の馬借と土一揆

『新しい歴史学のために』二八二(京都民科歴史部会) 二〇一三年五月

第三篇 山門と日吉社

第一章 大津神人と日吉祭

(新稿)

第二章 大津神人と山門衆徒

(新稿)

第三章 衆徒の金融と神人の金融

(新稿)

第四篇 中世都市・京都の変容

第一章 応仁の乱と京都

『学叢』二四(京都国立博物館) 二〇〇二年三月

第二章 中世京都・東山の風景

『風俗絵画の文化学』(松本郁代・出光佐千子編、思文閣出版) 二〇〇九年七月

第三章 中世「四条河原」考

『奈良史学』二七(奈良大学史学科) 二〇一〇年一月

付 篇

付 論 『言繼卿記』に見える法住寺

史料紹介 岡本保望上賀茂神社興隆覚

『学叢』三〇(京都国立博物館) 二〇〇八年五月
『賀茂文化研究』四(賀茂文化研究所) 一九九五年十二月

むすび

(新稿)

あとがき

中世の寺院社会に関する拙稿を集め、『中世寺院社会の研究』（思文閣出版）として上梓したのは二〇〇一年のことである。それから十三年、本書には主として前著以降に作成した中世寺院社会にかかわる拙稿を収録した。

この間、二〇〇五年以降、数年にわたり論考が全くないのは、二〇〇四年から二年間、文化庁で美術学芸課長の職にあった時、同課が長年管理していた国宝の高松塚古墳壁画の劣化が問題となり、その対応に忙殺されたことによる。ようやく研究を再開できたのは二〇〇六年四月に文化庁を離れ帝塚山大学人文科学部に移ってからのこと、かの二年間は私の研究生活にとって空白の歳月となっている。

立命館大学に入学するため郷里の金沢（加賀）を出たのは昭和四十一年（一九六六）四月のことである。同大には三年足らずしか在籍できなかったが、私に歴史学に向き合う姿勢を教えてくれたのはそこでの出会いと経験であった。それから四十八年、今も歴史学を学び続けられていられることを幸せに思う。

それにしても私は幸せものである。生まれてすぐに勝三郎・民子というやさしい養父母とめぐり会い、大学では林屋辰三郎先生というすばらしい恩師の警咳に接することができた。決して裕福とはいえない家庭でありながら、大学で学ぶことを許し援助を惜しまなかった今は亡き勝三郎・民子には心より感謝している。また林屋先生に学ぶことがなければ、この道に進むことは決してなく、その御恩は生涯忘れない。

本書の刊行にあたっては、思文閣出版の原宏一氏にひとかたならぬお世話になった。記して謝意を表するものである。

二〇一四年九月

下坂 守

ろ

廬山寺	235, 237
老若	28, 64
六箇条(六ヶ条)	95~97, 99, 100, 103~106, 111, 112, 114~116, 160, 178
六人之党主	102, 103, 161

わ

和田	112
和田社	98, 112
若党→じ)若輩	
若宮(若宮社、若宮神社)	98, 112, 177

ほ
保内(保内商人) 31, 33~35
法住寺 344~353
本願(本願職) 288, 289, 292, 294, 295, 352
『本福寺跡書』 121, 123, 137, 163

ま
松の馬場 98, 104~116
松本(松下) 184, 185, 206
松本神人 184
客人(客人社、客人宮)→ひ)日吉社客人社
満寺→そ)惣寺
曼殊院 350, 351

み
三井寺→お)園城寺
三尾社→お)園城寺三尾社
三津河 96, 97, 104
三津浜(三浜) 95~97, 99, 103~106, 113,
116, 160, 121~123, 136, 137, 161, 163,
164, 176
味噌屋 248, 249, 262
神輿馬(御輿馬) 130~132
神輿振り 4, 11, 101, 125~129, 133~135,
138, 151, 158, 173
御田社 98, 112, 113
南蓮華園 111
宮仕 33, 40, 149, 178, 192, 284, 286
妙法院 19, 64, 222, 345, 352, 353

む
無動寺→え)延暦寺無動寺

も
接藍船 325, 328
『門前町坂本絵図』(個人蔵) 98

や
八坂神社 290, 241, 277, 278
『八坂法観寺塔参詣曼荼羅』
278~280, 282, 283, 285, 292, 293
柳 252

大和庄 98, 107, 111
山科御影堂 348, 349, 353
山中 238, 239
山中越→い)今道越
山鉾・風流の巡行 317, 395~398
山法師ノ土蔵 217, 223

よ
横川→え)延暦寺横川
横小路 111
横関 31, 34~36
『耀天記』 130, 131, 175, 191
寄沙汰(寄物沙汰) 214
四谷 161
寄人 212, 213

ら
「洛中絵図」(宮内庁書陵部蔵) 314
「洛外名所図屏風」(太田記念美術館蔵)
316, 317, 320, 322~324, 327, 329
「洛中洛外図」(池田本) 290
「洛中洛外図」(上杉本)
298, 299, 316, 317, 319
「洛中洛外図」(東博模本)
290, 291, 296, 298, 316, 318, 321, 322
「洛中洛外図」(舟木本) 287, 290
「洛中洛外図」(歴博乙本)
296, 297, 316, 318
「洛中洛外図」(歴博甲本)
296, 297, 316, 318
「洛中洛外図帖」(奈良県立美術館蔵)
292, 293, 296, 298, 316, 319

り
楞嚴院→え)延暦寺横川
楞嚴院閉籠衆→え)延暦寺横川閉籠衆
両社(両社神社) 98, 112, 104

れ
蓮華園 98
蓮華王院→さ)三十三間堂

191~193, 195~197, 199, 201~206, 211, 212, 215, 217, 219~225, 393, 394, 396
 日吉社石の鳥居(石の鳥居) 98, 114, 115
 日吉社縁起(日吉の縁起) 175, 205, 206, 224
 日吉社王子宮(王子宮) 96, 97
 日吉社大鳥居(大鳥居、大神門、大門鳥居) 4, 98, 114, 115, 316, 317
 日吉社大宮(大宮社、大宮神、本宮) 12, 13, 15~19, 23, 25, 68, 69, 96~99, 159, 160, 175, 176, 181, 183, 191, 194, 204, 221
 日吉社大宮御油神人 204
 日吉社検校 179, 195~197
 日吉社三宮(三宮) 23, 25, 99, 131, 162
 日吉社下八王子社(下八王子社) 130
 日吉社社司(日吉社司) 178, 192~203
 日吉社十禪師(十禪師宮、十禪師社) 23, 25, 68, 69, 97, 99, 123, 131, 157, 163, 164, 204
 日吉社聖真子(聖真子) 23, 68, 69, 97, 99, 204
 『日吉社神道秘密記』 68, 104, 112, 113, 177, 178, 186
 日吉社神輿造替(神輿造替) 10, 127~129, 152, 177, 180, 212, 217, 218, 220, 221, 223, 225, 395, 396
 日吉社神輿動座(神輿動座) 22, 23, 26, 28, 40, 41, 100, 101
 日吉社神輿船渡御(船渡御) 130, 177, 186
 日吉社惣合鳥居(惣合鳥居) 98
 『日吉社并叡山行幸記』 180, 184, 186, 218~223
 日吉社二宮(二宮社) 23~25, 27, 28, 68, 69, 96~99, 131, 159, 163, 164, 205
 日吉社二宮神人 205
 日吉社八王子(八王子社) 12, 16, 19, 23~24, 25, 69, 125, 127, 128, 131, 162~164, 205, 244, 245
 日吉社八王子宮神人 205, 244, 245
 日吉社早尾大鳥居(早尾大鳥居) 97
 日吉社客人(客人社、客人宮) 16, 23~25, 68, 69, 97, 99, 202
 『日吉社室町殿御社参記』

96, 104, 111, 159, 160
 日吉神(山王、山王権現) 42, 101, 128, 132, 133, 183, 203, 204
 日吉神民→ひ)日吉社社司 『日吉神輿御入洛見聞略記』 152
 日吉二宮神人→ひ)日吉社二宮神人 日吉の縁起→ひ)日吉社縁起
 日吉八王子神人→ひ)日吉社八王子宮神人
 日吉馬場 96~99, 114
 日吉本宮→ひ)日吉社大宮 比叡辻(比叡辻道) 96~98, 104, 105, 112, 113, 159, 160
 非人(坂者) 5
 彼岸衆 212~214
 彼岸所 68, 69, 71, 162, 163, 197, 205, 206, 224
 尾藏寺 58
 琵琶湖 95, 114, 135, 159, 160, 177
 微妙寺 58, 60
 東浦→お)大津東浦 東御陣→と)東軍 東坂本→さ)坂本 東谷→え)延暦寺東塔東谷
 「東山名所図屏風」(国立歴史民俗博物館蔵) 316, 317, 321~323, 327, 329
 百度大路(百度小路) 33, 280~286, 301
 百度大路石塔(百度小路石塔) 279~282, 301
 ふ
 風呂(風呂屋) 106~109, 248~250, 253, 262
 福大夫社 98, 112, 113
 福成社 98
 船渡御→ひ)日吉社神輿船渡御
 へ
 閉籠 11~18, 23, 25, 30, 34~36, 41~43, 123, 149~151, 153, 162~165
 閉籠衆 13, 15, 16, 26~36, 40
 閉籠衆衆議下知状 30, 31, 33, 34
 『扁額軌範』 283, 291, 320

東寺 326, 327
 東塔→え)延暦寺東塔
 東塔北谷→え)延暦寺東塔北谷
 東塔西谷→え)延暦寺東塔西谷
 東塔東谷→え)延暦寺東塔東谷
 唐院→お)園城寺唐院
 等持寺 83, 86
 同宿 65, 66
 堂舎閉籠 9, 22, 28
 堂衆 9, 62, 66~71, 197, 205, 211~215, 217, 223, 224
 堂中 31, 32, 34~36
 『言国卿記』 106, 108~110
 『言繼卿記』 294, 343~346, 350, 351, 353
 徳政→と)徳政令
 徳政一揆 125, 129, 134, 137
 徳政令 17, 123, 162~166, 361~363
 豊国神社 357, 365
 鳥居 286, 301

な

奈良 235, 311
 内膳司 185, 206
 中嶋王子宮 96, 97
 中八条町 112, 113
 南院→お)園城寺南院
 『南院惣想集会引付』 60, 61
 南大門→ぎ)祇園社南大門

に

二条城 277, 357, 365
 二宮(二宮社)→ひ)日吉社二宮
 西浦 182
 西坂本→い)一乗寺 253
 西陣 239, 252, 254, 256, 260
 如意寺 58

ね

寝藍 326, 327

の

野川 35

は

馬借→さ)坂本馬借 6, 45, 97, 138, 161
 馬借年預職 160
 馬上一衆 3, 4, 33, 44, 173, 174, 211, 219, 223, 225, 233, 240, 248~250, 252, 254, 255, 257, 261, 262, 393, 395, 397
 馬上役→ひ)日吉小五月会馬上役
 馬場→ひ)日吉馬場
 橋爪堂(橋詰堂) 281, 282
 橋本供御人 182
 橋本五个庄 185, 206
 八王子(八王子社)→ひ)日吉社八王子
 八王子山 96, 97, 99
 八条(八条通) 98, 105, 111~116
 八幡宮→い)石清水八幡宮
 八幡神人→い)石清水八幡宮神人
 花の御所 234, 236
 浜→み)三津浜
 早尾大鳥居→ひ)日吉社早尾大鳥居

ひ

日銭屋 249, 250
 「日吉大宮縁起」 175, 176, 178, 186
 日吉小五月会 10, 31, 37~40, 42, 146, 206, 224, 248, 250, 252~254, 257, 258, 261, 262
 日吉小五月会馬上役(馬上役) 174, 206, 219, 225, 233, 234, 240, 241, 247, 248, 250~253, 255~261, 393, 398
 日吉祭(日吉の祭礼) 27, 36, 37, 40, 130, 131, 154, 155, 157, 158, 161, 173, 175, 176, 178~180, 182~184, 186, 187, 191~194, 196, 199, 202, 203, 215, 217, 218, 245
 「日吉山王祭礼図屏風」(サントリー美術館蔵) 161
 日吉神人 116, 173, 174, 179, 197~199, 219, 233, 234, 245, 247, 248, 250, 252, 253, 255~257, 259, 394, 398
 日吉社(日吉七社) 4, 6, 9, 10, 12, 13, 16, 17, 25, 42, 45, 64, 66, 68, 69, 71, 95, 96, 99~101, 104, 110, 114, 116, 123, 125~137, 146, 148, 150~153, 158, 159, 163~166, 174~177, 180, 182, 186, 187,

青蓮院 64, 66, 222, 257
 相国寺 236, 362
 聖真子→ひ)日吉社聖真子
 神馬 130, 131, 135
 神輿造替→ひ)日吉社神輿造替
 神輿渡御→ぎ)祇園社神輿渡御
 神輿動座→ひ)日吉社神輿動座
 神輿屋 113, 115
 『真盛上人往生伝記』 163, 164
 新宮(新宮社)→お)園城寺新宮
 新関 149, 152, 156
 新羅社→お)園城寺新羅社

 す
 水観寺 58
 出拳(出拳物) 173, 174, 212~214, 216, 217
 崇親院 329, 330
 菅浦 204
 杉生(スキウ) 111, 116
 杉生社 98

 せ
 膳所 182, 183, 185
 西軍
 234, 235, 238~240, 246, 247, 252, 256, 259
 誓願寺 235, 236, 239
 関上乘 121~123, 136, 137
 関所(関) 150~152
 千手堂(山王院)→え)延暦寺千手堂
 千本釈迦堂 235, 237
 専当 69, 70, 286

 そ
 惣合鳥居→ひ)日吉社惣合鳥居 98
 惣寺(惣山、満寺) 3, 9, 15, 22, 30, 43~45,
 58, 60~62, 71, 124, 144, 197, 392, 393
 僧供料 212~214
 雑色 243, 244
 蔵の辻 107~109, 116

 た
 大雲院 314, 322
 大衆→し)衆徒

大衆蜂起 198~200
 大將軍社 98, 110, 112, 113
 大乘寺町(大乘寺) 98, 107~109, 111~113
 大神門→ひ)日吉社大鳥居
 大道町 104
 大門鳥居→ひ)日吉社大鳥居
 旅所→ぎ)祇園社御旅所

 ち
 地検帳→ご)「五条町前後八町地検帳」
 「智証大師関係文書典籍」
 76~78, 82~85, 87~89
 中院→お)園城寺中院
 中堂→え)延暦寺根本中堂
 長講堂(法華長講堂弥陀三昧堂)
 345~347, 349~351

 つ
 作り道 111
 辻堂 282, 283, 285
 土一揆 18, 41~43, 45, 123, 137, 138, 144,
 148, 159, 161~166

 て
 寺町(寺町通) 314, 315, 328
 『天狗草紙』 312, 313, 330
 田楽 101, 251, 294

 と
 戸津(途津、富津) 96, 97, 103~105, 112,
 113, 121~123, 136, 137, 159, 160, 163
 戸津升米 221
 途津→と)戸津
 富津→と)戸津
 富崎 96, 97, 104, 105, 112, 113, 159, 160
 土倉(倉) 68, 116, 147, 173, 211, 219,
 221~223, 225, 233, 241, 248~250, 252,
 253, 260~262, 281, 393
 土倉方一衆(土倉方) 3, 4, 44, 174, 211,
 223, 233, 260, 261, 393, 395
 「当今世出制法」 63, 66, 67, 70
 東軍(東御陣)
 234, 238~241, 247, 250, 252, 258

- 12, 16, 17, 64, 65, 71
 坂本城 95, 112, 116
 坂本馬借(坂本の馬借) 17, 18, 120~126,
 129, 133, 135~138, 144, 148~166, 394
 酒井(坂井) 96, 97, 103~105, 112, 113, 160
 酒屋 31, 116, 147, 155, 211, 233, 241,
 248~250, 252~254, 262, 393
 酒屋・土倉役 174, 393
 鷲森越 235
 猿馬場 96, 97, 99
 三院→え)延暦寺三院
 三院→お)園城寺三院
 三十三間堂(蓮華王院) 351, 352
 三条大橋 277, 294, 313
 三塔→え)延暦寺三院
 三塔会合→え)延暦寺三塔会合
 三塔僉議→え)延暦寺三塔会合
 三宮→ひ)日吉社三宮
 三門跡→え)延暦寺三門跡
 三和尚 102, 103, 161
 山訴(山門嗽訴) 3, 6, 9, 22, 23, 25~29,
 36~38, 40~45, 145~150, 153, 158, 162,
 165, 166
 山徒 3, 11, 15, 17, 18, 44, 62~68, 70, 71,
 123~125
 山王→ひ)日吉神
 山王祭 176, 177
 『山王靈驗絵巻』 127, 128
 山門気風の土倉 10, 221~223, 225
 山門公人(公人)
 70, 72, 100, 149, 154, 157, 179, 205
 山門嗽訴→さ)山訴
 「山門三塔坂本惣絵図」(国立公文書館所蔵)
 98, 112, 115
 山門使節 3, 4, 17, 26, 28, 62~64, 68, 125,
 152~155, 157, 158, 160, 162, 163, 165,
 254, 262, 395
 山門使節制度 44, 62, 392, 393
 山門神人 185, 186, 206, 224
 し
 四至内 33, 66
 四条大路(四条通) 286, 299, 300, 311, 313,
 315, 317, 318, 322, 324, 328, 329
 四条河原 5, 286, 301, 311~313, 315,
 322~324, 327~330, 395
 四条通→し)四条大路
 四条道場→こ)金蓮寺
 四条橋 4, 292~299, 301, 312
 志賀 164, 255
 志賀越 235, 239
 執行代 262
 執当 62, 66, 100, 218
 執当家→じ)寺家
 執当房辻子 96, 97
 寺家 62, 66, 100~102, 106, 218, 219
 下京 106, 146, 240, 241, 246, 247, 250,
 252~255, 259
 下阪本 96, 97, 111~113
 下八王子社→ひ)日吉社下八王子社
 社司 178, 191, 198, 212, 215
 釈迦堂→え)延暦寺釈迦堂
 12, 14, 15, 23~27, 42
 杓ふり 287, 290, 292, 293, 301
 若輩(若党) 28~30, 64, 65, 70, 392
 衆徒(大衆) 3, 4, 9~12, 14, 15, 17~19, 22,
 23, 26, 30, 40, 58~61, 63, 64, 66, 67,
 69~71, 84, 90, 96, 99~102, 114,
 120~129, 132~134, 136, 137, 145, 144,
 147, 153, 157, 160, 165, 166, 173, 174, 179,
 187, 192, 193, 196~198, 200~206,
 211~213, 217~221, 223~225, 233, 242,
 258, 260~262, 394
 衆議 3, 9, 14, 31, 36, 58, 70, 86, 100, 144,
 205, 253, 392
 衆議事書(集会事書) 29, 30
 集会事書→し)衆議事書
 十禪師(十禪師宮、十禪師社)→ひ)日吉
 社十禪師
 十穀 287~289
 宿老 26, 64, 152, 392
 諸商売 233, 234, 248, 250, 262
 正長の土一揆 137, 138, 166
 庄 98, 107, 109, 111, 116
 庄の辻 107, 108
 庄町→し)庄

「祇園社絵図」	278~280, 282, 285
祇園社一鳥居(一鳥居)	296~299
「祇園社大政所絵図」	296, 316, 320
祇園社牛王寺殿	282, 283, 285, 291
祇園社西大門	281, 284
祇園社神輿渡御(神輿渡御)	316, 317, 395~397
「祇園社并旅所之図」	283, 291
祇園社南大門(南大門)	278~281, 283, 286
祇園林	284, 285
菊水橋	278, 279, 282
麴業	123, 155, 157
北白河(北白川)	123, 239
北野→き)北野社	
北野社(北野)	24, 37, 42, 45, 123, 146, 155~157, 235, 237, 239
北野祭	37~40, 42, 45, 146
清水寺	24, 145, 235, 292
京都所司代	360, 361
京都の入神人	180, 218~223, 225
京都町奉行所	300, 314, 326
『行幸記』→げ)『元徳二年三月日吉社并観山行幸記』	
行人	67, 68, 213
切物	213, 214
<	
公人→さ)山門公人	
公方御倉	397
供御人	182, 183
内蔵寮供御人	182
倉園社	98, 112, 113
鞍馬口	235, 236
鞍馬寺	235
車大路	281, 284
け	
検非違使(検非違使庁)	12, 196, 198, 201, 218~220, 225
下陣	259, 260
下僧	69~72, 213
下知状→へ)閉籠衆下知状	
夏衆	67, 68, 212, 214

夏堂	68, 69
『騷驢嘶余』	63, 66, 69~71
『元徳二年三月日吉社并観山行幸記』	9~13, 16~19, 22
こ	
小唐崎	97, 178
小坂	96, 97, 103, 111
小五月会→ひ)日吉小五月会	
小鳥居口	96, 97
小屋辻	96, 97, 103
古里井	111, 112
五条橋	277, 293, 294, 299, 300
「五条町前後八町地検帳」	241~244, 247
五別所→お)園城寺五別所	
牛王寺殿→ぎ)祇園社牛王寺殿	
護法社	59
紺屋	248~250, 325~327, 329
郡園社	98, 112, 113
康暦の政変	152, 187
琴御館	175, 178
近松寺	58
金蓮寺(四条道場)	312, 313, 316, 317, 322
根本中堂→え)延暦寺根本中堂	
根本中堂閉籠衆→え)延暦寺根本中堂閉籠衆	
さ	
西教寺	163, 164
西大門→き)祇園社西大門	
西塔→え)延暦寺西塔	
西塔院閉籠衆→え)延暦寺西塔閉籠衆	
西塔閉籠衆→え)延暦寺西塔閉籠衆	
在地	95, 97, 99, 100, 102~104, 106, 109~116, 159~161, 397, 398
在地人	4, 17, 18, 95, 97, 100~103, 106, 109, 132, 148, 158, 160, 161, 166, 281, 286
坂本(東坂本)	4, 6, 17~19, 62, 64, 71, 95~97, 100~103, 106, 107, 109, 110, 112, 114~116, 123, 135~137, 148, 154, 155, 157~159, 161~163, 165, 173, 178, 235, 238, 239, 253, 255
坂本衆徒(坂本の衆徒、坂本の山徒)	

144, 145, 147, 148, 166, 167, 394, 395
 応仁の乱(応仁・文明の大乱) 4, 44, 45,
 103, 106, 116, 146, 234, 246, 248, 287, 351,
 393, 394
 大津 96, 173, 176, 177, 181, 183, 203,
 218~220, 235, 238, 239
 大津供御人(大津東西浦供御人) 182
 大津神人 4, 173~179, 183, 186, 187,
 191~197, 199, 201~206, 211, 212, 215,
 217~220, 222~225, 394
 大津生得神人
 179~181, 185, 217~219, 223
 大津西浦(西浦) 175, 179, 182
 大津東浦(東浦) 179, 182, 199
 大鳥居(大神門)→ひ)日吉社大鳥居
 大鳥居社 98, 112
 大政所→ぎ)祇園御旅所
 大宮(大宮社、大宮神)→ひ)日吉社大宮
 「岡本保望上賀茂神社興隆覚」 356~358
 下立関(折立関) 152
 園城寺 11, 57~59, 61~63, 69, 71, 76, 77,
 82~91, 179, 181, 192, 193, 202, 212, 252
 「園城寺絵図」 58
 園城寺五別所(五別所) 58, 60~62
 園城寺三院(三院) 58~60, 62
 園城寺新宮(新宮、新宮社) 192~194, 202
 園城寺新羅社(新羅社) 59
 園城寺中院(中院) 58, 59
 園城寺唐院(唐院) 84
 園城寺南院(南院) 58, 59
 園城寺北院(北院) 58, 59
 園城寺三尾社(三尾社) 59

 か
 高陽院 198~200
 賀茂河→か)鴨川
 賀茂社(賀茂、加茂)→か)上賀茂神社
 賀茂惣中→か)上賀茂神社惣中
 嘉吉の土一揆 41, 137, 138, 166, 393
 駕輿丁 101, 110, 157, 158, 166, 178, 180,
 192, 312, 313
 会頭料 212~214
 学生 63, 67~69, 71, 197, 205, 213

学頭代 34, 35, 242~244, 246, 247
 借上 173, 174, 213, 214
 春日神人 262
 堅田 120~122, 136, 137
 堅田大責 121, 122, 136, 137
 堅田関(堅田の関) 123, 150, 151
 上賀茂神社(賀茂社)
 215, 235, 356, 357, 359~365
 上賀茂神社惣中(賀茂惣中) 356~365
 上坂本 96, 97, 106, 110~115
 「上下坂本略絵図」 96, 98, 104
 鴨川(賀茂川) 5, 100, 101, 236, 278, 296,
 311, 313, 315~317, 322, 328, 329
 鴨河原 123, 198, 328
 唐崎 159, 175~179, 184, 193, 194, 199
 唐崎御供→あ)粟御供
 唐崎宿院 178, 186
 川崎 311, 328
 河原者 4, 311~313, 315, 322~325,
 328~330, 395
 冠者殿社(冠者殿) 316~319, 321, 322
 感神院 283, 284
 勧進 287~290, 292~295, 301, 352

 き
 騎兵社 98, 112
 祇園→ぎ)祇園社
 祇園会 36~40, 42, 45, 146~148, 154,
 198, 250, 288, 296, 297, 300, 316, 395~398
 祇園御旅所(御旅所、旅所)
 291, 296, 300, 320~322
 祇園大鳥居 294, 296
 祇園口 300, 301
 祇園功程 250, 251
 「祇園祭礼図屏風」(サントリー美術館蔵)
 316, 317, 319, 322
 祇園執行(祇園執行房、祇園社の執行)
 28, 31, 33, 150, 300
 祇園神人 198
 祇園社(祇園) 4, 5, 24, 37, 38, 40, 42, 45,
 123, 125, 145, 147~153, 155, 156, 158,
 198, 215, 277~280, 282~292, 294~296,
 301, 316, 317, 321, 395~397

【事 項】

あ	
藍課役(藍公事)	329
藍染屋(藍染職)	325~327
青屋	324~329
明良(アキラ)	109, 111, 116
明良祭(アキラノ祭)	110
明良宮(アキラノ宮)	110
明良馬場	115, 116
預(預房)	59~62, 69, 71, 84
余部(余部村、余部屋敷、天部)	313~317, 322, 323, 328
粟御供(唐崎御料)	177~180, 184~187, 191~194
粟津	177, 181~186, 206, 238
粟津御供	182, 183
粟津御供	177, 181, 185
粟津神人	184, 185
粟津神社(粟津明神)	185, 186
い	
井神(井神町、井神通)	98, 111, 112, 114~116
伊勢園	98
石の鳥居(中神門)→ひ)日吉社石の鳥居	
石山寺	235, 238, 239
泉	106, 111, 116
泉社	112
磯成社	98, 112
一院	12~14, 17, 18, 23, 27, 29~31, 35, 36, 44, 62, 392
一乗寺(西坂本)	238, 253
一鳥居→ぎ)祇園社一鳥居	
市原野	65, 235
犬神人	5, 123, 284
今津	96, 97, 103~105
今道越(今路、山中越)	97, 105, 238, 239, 286

新日吉社	10, 11
石清水八幡宮(石清水、八幡宮)	10, 215, 261
石清水八幡宮神人(八幡神人)	256
う	
馬ノ衆	129~135, 148, 166
え	
穢多(穢字家)	312, 324, 325, 328, 330
永享の山門騒乱	23, 44, 126, 145, 393
『延慶本平家物語』	127, 199, 213
延暦寺根本中堂(根本中堂、中堂)	12~14, 23~25, 30, 31, 35, 42, 69, 127~129, 202
延暦寺根本中堂閉籠衆	33~36
延暦寺西塔(西塔)	3, 9, 12~15, 23, 26, 28~30, 40, 41, 62, 253
延暦寺西塔閉籠衆(西塔閉籠衆)	26~29, 31, 33
延暦寺三院(三院、三塔)	3, 9, 17, 23, 62, 64, 69, 101, 157, 162, 253, 255, 262, 393
延暦寺三塔会合(三塔会合)	12, 28, 29
延暦寺三門跡(三門跡)	221, 284, 352
延暦寺千手堂(千手堂、山王院)	242
延暦寺東塔	3, 9, 14, 23, 26~29, 35, 41, 62, 202, 253
延暦寺東塔北谷(東塔北谷)	19
延暦寺東塔西谷(東塔西谷)	205, 242~247, 253, 254
延暦寺東塔東谷(東塔東谷)	35, 36, 163
延暦寺無動寺(無動寺)	38
延暦寺横川(楞嚴院、横川)	3, 9, 12, 14, 15, 23, 26~29, 62, 253, 286
延暦寺横川閉籠衆(楞嚴院閉籠衆)	33
お	
御旅所→ぎ)祇園御旅所	
御土居	277, 299~301, 315, 317, 318, 321, 364
御構	4, 234, 235, 238~241, 247, 250, 252, 253, 258, 259, 394
王子宮→ひ)日吉社王子宮	
王法仏法相依(王法仏法相依論)	5, 6, 11,

宝蔵坊 248, 249
 北林坊泉恵 81, 83, 86, 89
 北林坊朝円 81
 細川勝元 40, 235, 245
 細川頼之 152
 堀 256

ま

前田玄以 294, 300, 314
 万蔵(満蔵、祇園社本願) 288~290

み

源義綱 127, 198

む

村井貞勝 294, 295

や

弥阿弥 288
 山上宗二 365
 山科家 102, 182, 345, 347~350, 353
 山科言国 103, 106, 108, 109, 235, 347
 山科言継 343~347, 349~352
 山科言綱 344, 345, 347, 351
 山科教言 349
 山名教之 256
 山名政豊 238, 239, 241, 256
 山名持豊 235

ゆ

行丸→は) 祝部行丸

り

理教坊性算 15, 18, 19
 龍泉坊 249

れ

冷泉教成 348
 蓮台坊盛範 15

ろ

六角高頼 392
 六角久頼 27

六角満綱 24, 123, 394

	さ	
寒川清辰		182, 183
沢村		256
三諦坊承喜		15, 18
	し	
秀仙(祇園社本願)		288, 289
秀貞(祇園社本願)		288, 289
小林坊		249
正実坊		249, 256
正実坊泰運		257, 258
正蔵坊		249
松梅院禅能		156
勝林坊本有		11
上林坊		160
成仏		10, 206
定光坊		249
定泉坊		248, 249, 256, 260
乘蓮坊兼宗		65
	す	
瑞勝院瑞吉		244, 246
杉生坊		63, 64, 123
	せ	
是樹上人		86
盛範→れ)蓮台坊盛範		
静住院憲舜		160
摂津之親		244
泉恵→ほ)北林院泉恵		
禅住坊		249, 256
	そ	
蔵乗坊朝円		81, 89
蔵乗坊朝幸		83, 86
	た	
田中恒世		
175, 176, 180, 182, 185, 192, 194, 196, 197		
多賀高忠		123, 245
高階栄子(丹後局)		348, 349

	ち	
智源(祇園社本願)		293~295
智証大師→え)円珍		
長寿坊		249
朝覚(祇園社本願)		288, 289
朝幸→ぞ)蔵乗坊朝幸		
	と	
徳阿弥(祇園社本願)		287~289
豊臣秀吉		96, 277, 294, 299, 314, 320, 357~359, 362~365
	な	
中御門宗忠		198~200
南淵院僧正		83
南岸坊		63, 64
南岸坊澄詮		11
	は	
畠山政長		243~245
畠山義就		40, 243, 244, 246
畠山義統		259
祝部行丸		186
	ひ	
日野勝光		260, 261
	ふ	
藤原定家		145, 217
藤原実教(浄土寺二品)		348
藤原為房		197~200
藤原仲実		198
藤原宗忠→な)中御門宗忠		
藤原師実		198, 199
藤原師通		127, 145
藤原良相		329
藤原良平		11
	ほ	
宝寿院顕縁		150, 151
宝寿院顕詮		285
宝聚坊		248, 249

索引

【人名】

	95, 112, 114, 277, 295, 357, 361~363
	大内政弘 234, 235, 256, 259
	大沢氏
	102, 103, 106~110, 345~347, 362, 363
	大津長昌(伝十郎) 362, 363
	岡本保望 356~365
あ	
足利尊氏	85, 217, 223
足利義教	26, 44, 64, 88, 145, 160, 393
足利義政	43
足利義満	4, 23, 26, 96, 99, 101, 102, 114, 121, 152, 159, 174, 187, 395~397
足利義持	26, 64, 66, 154, 156
安養坊	249, 257
い	
伊勢貞宗	261
泉屋	256
板倉勝重	358, 360, 361
板倉重宗	361
う	
宇志丸	175, 178, 191, 192, 194, 196, 197
え	
円恵(兵部阿闍梨)	15, 16, 19
円真(祇園社本願)	288, 289
円珍(智証大師)	76, 78~82, 88, 90, 200
円明坊	63, 64, 66, 123, 135, 149~152, 251
円明坊兼慶	152
円明坊兼承	65
円林坊昌憲	11
縁実坊(祇園社本願)	288, 289
お	
織田信長	
	95, 112, 114, 277, 295, 357, 361~363
	大内政弘 234, 235, 256, 259
	大沢氏
	102, 103, 106~110, 345~347, 362, 363
	大津長昌(伝十郎) 362, 363
	岡本保望 356~365
か	
覚尋→こ)金剛寿院覚尋	
月輪院	64
甘露寺親長	235, 238, 239
願阿弥(清水寺本願)	292
き	
木沢	243, 244, 246, 247
木下	256
木下藤吉郎→と)豊臣秀吉	
貴布禰上人(きふねの上人)	363, 364
京極	24, 123, 312
け	
兼運(執当)	100
兼覚(執当)	218
兼慶→え)円明坊兼慶	
顕縁→ほ)宝寿院顕縁	
顕詮→ほ)宝寿院顕詮	
こ	
後白河法皇(後白河院)	344~351, 353
護正院	63, 252, 257
光林坊	249
金剛寿院覚尋	67, 214
金輪院	63, 64
金輪院澄春	11, 222

◎著者略歴◎

下坂 守 (しもさか・まもる)

1948年石川県金沢市生れ。大谷大学大学院文学研究科修士課程修了。日本中世史を専攻。大津市史編纂室・京都国立博物館・文化庁美術学芸課・帝塚山大学人文学科・奈良大学史学科において勤務。京都国立博物館名誉館員。博士(文学 立命館大学)。

著書に『中世寺院社会の研究』(思文閣出版, 2001年)『描かれた日本の中世』(法藏館, 2003年)『京を支配する山法師たち』(吉川弘文館, 2011年)がある。

ちゅうせい じ いんしゃかい みんしゅう
中世寺院社会と民衆
— しゅうと ばしやく じにん かわらもの
衆徒と馬借・神人・河原者 —

2014(平成26)年11月10日発行

定価：本体7,500円(税別)

著者 下坂 守

発行者 田中 大

発行所 株式会社 思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355

電話 075-751-1781(代表)

装幀 小林 元

印刷 重細重印刷株式会社

© M. Shimosaka 2014

ISBN978-4-7842-1779-3 C3021

◎既刊図書案内◎

下坂守著

中世寺院社会の研究

思文閣史学叢書

ISBN4-7842-1091-1

河内将芳著

祇園祭の中世

室町・戦国期を中心に

ISBN978-4-7842-1631-4

松本郁代・出光佐千子・
彬子女王編

風俗絵画の文化学Ⅲ

瞬時をうつすフィロソフィー

ISBN978-4-7842-1775-5

仁木宏著

京都の都市共同体と権力

思文閣史学叢書

ISBN978-4-7842-1518-8

細川涼一著

日本中世の社会と寺社

ISBN978-4-7842-1670-3

桃崎有一郎著

**中世京都の空間構造と
礼節体系**

ISBN978-4-7842-1502-7

中世社会に大きな影響を与えたが、総合的な把握がなされてこなかった比叡山延暦寺を主たる対象とする。惣寺一僧侶たちによる合議一を基礎単位とした中世寺院の広がりを寺院社会として捉え、その歴史的な意味を考察。惣寺がいかなるものであつたかはもとより、惣寺を基盤として形成されていた寺院社会、ひいては中世社会の本質を探る。▶A5判・598頁／本体9,800円

都市京都を文字どおり代表する祭礼であつた祇園会を通して、中世京都を考える。祇園会の見物という行為の検討により、その特質をうきぼりにし、さらに神輿渡御の神幸路・御旅所と都市空間との関係、戦国期の祇園祭の再興の意味や、「鬮取」の実態についても解き明かす。▶A5判・360頁／本体4,500円

風俗画の歴史的な実証に留まらず、描かれた事象に織り交ざる虚実を読み解くことで、鑑賞されることを意識した美的な演出や、儀礼や慣習から生じた絵の上での約束事や仕掛け、信仰のイメージや地域に根ざした特殊な世界観などといった、人間の営為そのものの原理を探究する、哲学的思考(フィロソフィー)へと解釈を広げた13篇。▶A5判・434頁／本体7,000円

中世京都の都市構造モデルを前提に、その変容のなかから町(ちょう)の成立を読み解く。自力救済社会における武家と都市市民の対峙が、やがて公儀を創出し、都市共同体を確立させることを明らかにする。中近世移行期における自治、共同体、権力の葛藤を正面から見すえ、都市の本質を具体的、理論的に分析した一書。▶A5判・332頁／本体6,300円

律宗・律僧が中世社会で果たした役割を中心に、女性や被差別民など、歴史の主流からこぼれ落ちがちなものたちへ常にまなざしを注ぎ、境界領域から歴史を問い続けてきた著者の主要な研究成果を一書にまとめる。▶A5判・452頁／本体7,700円

貴人と牛車ですれ違う場合の正しい作法は？ 参内するときはどこで牛車を降りればよいのか？ 中世の京都で実践された礼節体系の考察を通じて、中世京都の空間構造を明らかにし、室町殿権力の形成・展開過程をも論ずる。▶A5判・584頁／本体7,200円

思文閣出版

(表示価格は税別)